酒造好適米評価体系の確立と
醸造特性に優れる「雪女神」の育成

中場　勝　氏（６１歳）
山形県庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課
専門普及指導員
（元山形県農業総合研究センター水田農業研究所長）

１　業績の概要

背景

山形県では、昭和59年に「山形県酒造適性米生産振興協議会」が設立され、酒造好適米の生産振興が図られてきた。良質な酒米生産技術の確立とともに、高度精白を行っても砕けにくい素質を持つ大吟醸酒向け品種の育成は、県酒造関係者の悲願であり、酒造好適米品種の開発を進める上で、その評価体系を確立することは重要な課題であった。

研究内容・成果

酒米品種の育成において、評価方法が定まらずに試行錯誤していた段階から品種育成に携わる中で、育成段階から酒造好適米としての醸造特性を評価する体系を確立した。特に大吟醸酒醸造を想定した適性を見極めるため、 心白発現率や心白率、玄米粗タンパク質含有率等の分析に加え、精米歩合60%と40%における高度搗精試験を行うとともに、県工業技術センターと連携し、酒米の吸水性や消化性等の醸造特性を明らかにし評価してきた。その結果、山形県初となる大吟醸酒向け酒米品種「雪女神」を育成するとともに、「『雪女神』栽培マニュアル」や「酒米に関する資料」を取りまとめ、「雪女神」の普及定着を図った。

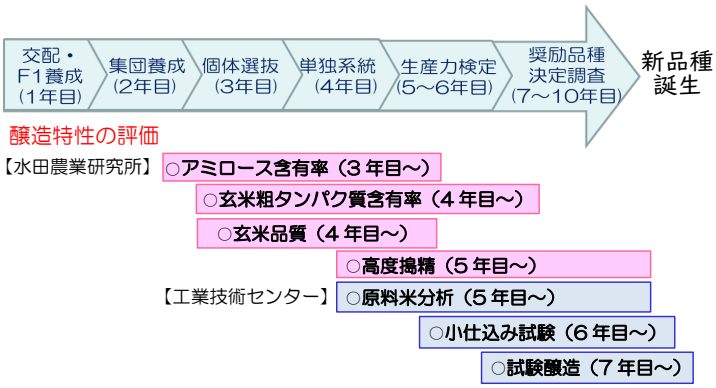

図１ 酒米品種育成の流れ
（原料米分析：吸水性、砕米率、蒸米消化性
小仕込み試験：醸造適性、清酒官能試験）

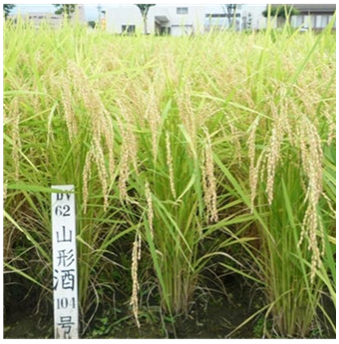

図２「雪女神」
（山形酒104号・成熟期）

図３「酒米に関する資料」
（山形県酒造適性米生産振興対策協議会・令和5年3月）

普及状況

国内における酒造好適米の生産量（検査数量・玄米）は令和4年産で79千ｔ程度と見込まれる一方、山形県における生産量は3,190ｔで全体から見れば約4%程度となっている。このような中で、令和4酒造年度全国新酒鑑評会において、特に優秀な酒に与えられる金賞の山形県内の受賞数は20銘柄で9年ぶりの日本一となった。金賞を受賞した半数の銘柄は「雪女神」を使用しており、蔵元からは酒造好適米として高く評価されている。育成系統の醸造特性を明らかにするための評価方法を体系化したことは、県外の酒米品種の育成にも影響を与えている。

２　評価のポイント

酒米品種の育成に当たり、育成段階から醸造特性を評価し、効率的かつ効果的に選抜・育成する体系を確立したことは、今後の優良酒米品種の育成を進める上で大いに貢献するものである。また、「雪女神」を始めとする優良な酒米品種の育成は、酒米生産者や酒造業界のみならず、地域経済の活性化にも貢献するものであり、その業績を高く評価した。

【連絡先】山形県農業総合研究センター
（住所：〒990-2372　山形県山形市みのりが丘６０６０－２７　TEL：023-647-3500）